

平成 21 年度

「バイオ分子センサー」連携研究公開シンポジウム

日程:平成 22 年 01 月 15 日(金)8:40-18:00

場所:自然科学研究機構 岡崎カンファレンスセンター中会議室

プログラム

8:40-10:10	1.1	南部 篤	光受容イオンチャネル導入による神経回路解析
	1.2	小泉 周	ラット網膜組織培養と遺伝子銃によるメラノプシン遺伝子導入法の確立
	1.3	田中 謙二	光応答性チャネル特性を行動学へ応用する技術開発
	1.4	最上 秀夫	プリズム式全反射顕微鏡を用いたマルチシグナルイメージング
	1.5	吉田 紀生	3D-RISM 理論による嗅覚受容体の分子認識に関する理論的研究
10:10-10:25			-休憩-
10:25-12:13	2.1	Radostin Danev	The Structure of <i>Helicobacter pylori</i> VacA by Zernike Phase Contrast cryo-TEM
	2.2	釜澤 尚美	ナノ粒子を用いた生体膜タンパク分子の可視化技術の開発
	2.3	深澤 有吾	バイオ分子センサーの空間配置の解析
	2.4	大橋 正人	平面細胞極性シグナルセンサー蛋白質と細胞内トラフィック
	2.5	加藤 晃一	タンパク質の細胞内品質管理における分子センシング機構
	2.6	宇理須 恒雄	プレーナーパッチクランプバイオセンサーの開発と光刺激神経細胞ネットワーク素子への応用
12:13-13:00			-休憩-
13:00-15:06	3.1	富永 真琴	無脊椎動物の温度感受と TRP チャネル
	3.2	檜山 武史	脳内Naレベルセンサーの生理機能
	3.3	高橋 弘樹	神経-脊索相互作用による脊索動物体制の進化
	3.4	岡村 康司	電位センサードメイン蛋白から見る電位センサーの原理と多様性
	3.5	東島 眞一	膜電位センサーによるゼブラフィッシュの in vivo イメージング
	3.6	新谷 隆史	神経回路形成における微小管制御因子の機能解析
	3.7	作田 拓	方向選択性網膜神経節細胞サブタイプマーカーSPIG1
15:06-15:20			-休憩-
15:20-15:50	特別講演 1	澤本 和延	成体脳におけるニューロン新生を制御する細胞外環境とその受容機構
15:50-16:20	特別講演 2	森 郁恵	線虫における神経コード
16:20-16:30			-休憩-
16:30-18:00	4.1	野中 茂紀	マウス胚における左右性初期決定機構の解析
	4.2	秋田 天平	「Ca ²⁺ ナドメイン」を介するブラジキニン誘起性アストログリア細胞容積センサー外向整流性アニオンチャネル(VSOR)活性化機構
	4.3	藤川 顕寛	プロテアーゼプロセッシングによる受容体型チロシンホスファターゼの機能制御
	4.4	重本 隆一	バイオ分子の電子顕微鏡的定量的ための標識法の開発
	4.5	池中 一裕	センサー膜蛋白質糖鎖構造決定法の開発

発表時間は 1 人 18 分（発表 15 分、質疑 3 分）